



236

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年11月10日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



池上彰の

聞いて
いい
ですか？

鳥類学者の川上和人さんに聞く

西之島にひかれる理由とは

10日(日)＝1、3面



今週は「池上彰のこれ聞いていいですか？」をお届けします。

今回の対談相手は、国立研究開発法人・森林総合研究所の鳥類学者、川上和人さん＝写真＝です。NHKラジオの子ども向け科学番組の出演や、「鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。」がベストセラーになったことでも知られています。川上さんは小笠原諸島の鳥類研究がライフワークで、現在は噴火し続ける西之島の生態調査を続けています。西之島は海底火山の噴火により溶

岩や火山灰で覆われてしまい、これまでの島の様相が一変しましたが、海鳥が戻って営巣、産卵をするなど、新たな生態系が生まれつつあります。川上さんが西之島にひかれる理由は何か、また一見「役に立たない」と思われがちな鳥類研究の意味、目的はどこにあるのかなど、「学問とは何か」というテーマにも分け入ります。

池上さんが深く、鋭く聞き出します。



深刻化するプラスチックごみ汚染

10日(日)＝総合面

石油から作られるプラスチックは安くて丈夫であることなどから、1950年代以降急速に普及し、さまざまな製品に使われてきました。ところが捨てられたプラごみによる環境汚染が深刻化し、人間の健康面への影響も

懸念されています。国際社会は年内に汚染根絶のための条約を作ることに合意し、今月25日に最後の交渉が始まります。汚染の現状や見通し、日本国内での対策などについてまとめました。



海岸に漂着したプラごみ



アジア人の女性作家として初めて、今年のノーベル文学賞受賞が決まった韓国の作家ハン・ガン（韓江）さん＝写真＝韓国の過去の弾圧事件

や、家父長制などによって傷つき、抑圧された人々の心の傷を描くハンさんの文学の魅力や、今回の受賞の意義を、早稲田大学教授（米文学）の

都甲幸治さん、書評家の江南亜美子さん、小説家の中沢けいさんが、それぞれ視点から論じてくれます。

論点

アジア女性作家初のノーベル文学賞

13日(水)＝オピニオン面

特集 **ワイド**

連立政権を考える

11日(月)＝夕刊2面

長年にわたり連立与党を組んできた自民、公明両党が、衆院選で過半数割れとなりました。政界はどうなるのでしょうか。思い浮かぶのは1990年代、自民一党支配の「55年体制」が崩壊し、いくつもの連立政権

が生まれたことです。11日は特別国会の召集日。田中秀征・元経済企画庁長官と山崎拓・元自民党副総裁に、いま振り返って思うことや、連立政治の教訓について尋ねました。

10日午後2時から毎日新聞×ホスピス財団でイベント「大切な人を亡くすとき」を開催します。家族や友人など大切な人を失った時、誰もが感じる孤立・孤独をどう乗り越えるか、心持ちを決めておくべきことを専門家と考えます。ぜひご覧ください。アーカイブ視聴も可能です。イベント開始時間までお申し込みが可能です！（堀之内浩嗣）

竹橋の
窓辺から

編集後記


毎日新聞